

卓球部時代

二十五期生 近 光 護

私達の現役時代を振り返ってみると、西高卓球部の歴史の中で、幾つかあった黄金時代の一つに私達の時代が含まれるのではないかと思っています。

主な成績をあげてみますと、個人では、全日本J、関東、インターハイと都代表を送り、団体戦でも、新人戦ベスト四、インターハイ予選ベスト八など東京都でも上位にランクされています。また、都立戦では無敵の強さを誇っていました。

残念ながら全国的レベルにまで達することはできませんでしたが、都立の名門受験校の運動部としては、なかなかよくやったのではないかと、自負しているのであります。

私達の同期の部員は、総勢十五名ほどで、その多くが週四日ないし五日の練習に参加して汗を流し、上級生が顔を揃えると練習ができず、下級生の頃はよく井の頭まで走らされ、上級生になると、下級生をよく走らせたものでした。

私達の在学中は、丁度西高の変換期にあたり、古い校舎、体育館がこわされ、新しく生まれ変わっていきこうとする時期で、その為練習がよく変わり、二年の時は、工芸室前の渡り

廊下で毎日練習したものでした。

かえって、毎日練習できたことが、強くなれた原因なのかもしれませんか？

この練習場を見つけるのに苦労し、時には文句をいわれながらやった事が、まだ鮮明に頭に浮かびます。

丁度、その年の夏合宿では、私が入学して以来初めて、萩村さんが練習を見に来られ、私達はどう応待したらいいのか、大変あわてて、練習はコチコチに固くなり、気が動転してしまつたのを思い出します。今でも、大きな試合の会場でお会いすると、緊張するのですが、あの頃の比較にはとてもならないのではないかと思います。

また、その後卓球留学で来日していたスウェーデンの選手と試合をしたり、体育館開きの時は、日本のトッププレーヤーである田阪選手、古川選手と試合をし、西高卓球部に所属していなければどうして得ることのできない経験をさせてもらい、卓球選手として、幸福なことだと感じました。

良き先輩に見守られ、信頼できた先輩、後輩と共に汗を流した西高時代が、今でもなつかしく、できることなら、またもどってみたい気がする、楽しいクラブの思い出でした。

同期の仲間たち、

庄司裕、小林彰、小堀孝浩、市川仁、藤井章雄、金子裕二、浦久保希実子、森田亮子、岡田啓子、坂上みつ子、祖父江雅子、田中薫子